表－6.9.2(5)　改変区域内において確認された重要な種の分布及び生息状況に基づく変化の程度の検討(動物)　(その4)

++ :2～10個体未満　+++ :10～100個体未満　++++ :100個体以上

| No. | 分類群 | | | | 国外、国内、沖縄県内における分布状況(亜種については同一亜種の分布情報) | | | 石垣島内における生息状況 | | 注6 現空港予定地関連調査 | | | | | | 重要な種の分布及び生息状況の変化の程度 | 指定及び選定状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 法的規制 | | その他 | |
| | 区分 | 目 | 科 | 種 | 注1 国外 | 注2 国内 | 注3 沖縄県 | 注4 石垣島内 | 注5 石垣島内での生息状況ランク | 改変区域外の洞窟 | 改変区域内の洞窟 | 改変区域外での確認 | 航空障害灯予定地での確認 | 空港施設予定地での確認 | 合計 | | 注7 天然記念物 | 注8 種の保存法 | 注9 環境省 | 注10 沖縄県 |
| 26 | 陸産貝類 | マイマイ | ニッポンマイマイ | クロイワヒダリマキマイマイ | － | － | 石、西 | 局部的に生息するものと推定される。原生林に生息するとされる。<br>個体数は少ない。生息密度は非常に低いとされる。 | A | | | 2<br>(うち死骸1) | 2<br>(すべて死骸) | | 4<br>(うち死骸3) | 石垣島内の原生林等に局部的に生息し、個体数は少なく、生息密度は非常に低いと推定され、さらに、調査範囲における確認個体数は少なく、その半数は改変区域内での確認であるが、顕著な大型種であるにもかかわらず、改変区域内では死骸しか確認されていないことから、現生しないものと考えられる。 | | | | 準 | |
| 27 | クモ類 | クモ | キムラグモ | イシガキキムラグモ | － | － | 石 | 生息域は不明。<br>個体数はやや少ない～少ないものと推定される。環境省RDBでは絶滅危惧Ⅱ類に指定。 | B | | | 46 | | 2 | 48 | 石垣島内の生息域は不明で、個体数はやや少ない～少ないものと推定されるが、調査範囲においては改変区域外で殆どの個体が確認され、改変区域内での確認はわずかであることから、事業実施区域周辺の個体群が存続できないおそれはないものと考えられる。 | | | | Ⅱ | |

注1. 分布状況(国外)
中:中国　台:台湾　朝:朝鮮半島　印:ｲﾝﾄﾞ　比:ﾌｨﾘﾋﾟﾝ　東南:東南ｱｼﾞｱ

注2. 分布状況(国内)
本:本州　伊豆諸:伊豆諸島　小笠諸:小笠原諸島　四:四国　九:九州　ﾄｶﾗ列:ﾄｶﾗ列島　奄美諸:奄美諸島

注3. 分布状況(沖縄県)・・・下記島嶼は以下の省略名で表記する
沖:沖縄本島　久:久米島　宮:宮古島　石:石垣島　西:西表島　与:与那国島
波:波照間島

近隣の複数島嶼に分布がわたる場合、以下の表記とする。
沖諸:沖縄諸島　宮諸:宮古諸島　八諸:八重山諸島　大諸:大東諸島　尖諸:尖閣諸島

*の表記については、生息情報が不明確なもの。

注4. 石垣島内における生息状況について・・・知見は詳細に記述するが、
分布や個体数の定性的表現は以下の表記とする。
(分布)広範:概ね全域に分布、局所的:生息地が限定、局部的:生息地がきわめて限定
(個体数)多い・普通・少ない・きわめて少ない・点在

注5. 石垣島内での生息状況ランク
Aﾗﾝｸ:分布や個体数が限られ、特に保護の必要性が認められる種(分布・個体数双方が少ない種や局部性種、個体数の極めて少ない種)
Bﾗﾝｸ:分布・個体数の片方が限られるもしくは少ない種。また分布や個体数の双方がやや限られる種。法的規制種、分布や個体数情報が不明であり念のため保全に努める必要性の認められる種
Cﾗﾝｸ:その他の貴重種

注6. 現空港予定地関連調査
現地調査において、調査員が確認した個体数及び目視により確認した個体数を示す。
目視により確認した個体数は以下のとおり。

++　:2～10個体未満。
+++　:10～100個体未満。
++++:100個体以上。

注7.天然記念物:「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)
特→特別天然記念物　国→国指定天然記念物　県→県指定天然記念物

注8.種の保存法:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律75号)
国内→国内希少野生動植物種(本邦に生息し又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種)
国際→国際希少野生動植物種(国際的に協力して保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種)

注9. 環境省:「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-ﾚｯﾄﾞﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸ-哺乳類」(2002年 環境省)
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-ﾚｯﾄﾞﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸ-爬虫類・両生類」(2000年 環境庁)
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-ﾚｯﾄﾞﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸ-鳥類」(2002年 環境省)
「無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のﾚｯﾄﾞﾘｽﾄの見直しについて」(2000年 環境庁)
Ⅰ →絶滅危惧Ⅰ類(絶滅の危機に瀕している種)
ⅠA→絶滅危惧ⅠA類(絶滅の危機に瀕している種－ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)
ⅠB→絶滅危惧ⅠB類(絶滅の危機に瀕している種－ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)
Ⅱ→絶滅危惧Ⅱ類 (絶滅の危険が増大している種－現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準→準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種－現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

注10. 沖縄県:「沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物―ﾚｯﾄﾞﾃﾞｰﾀおきなわ―」(1996年 沖縄県)
危惧→絶滅危惧種(絶滅の危機に瀕している種または亜種)
危急→危急種(絶滅の危機が増大している種または亜種)
希少→希少種(現在のところ「絶滅危惧種」にも「危急種」にも該当しないが、生息条件の変化によって容易に上位のランクに移行するような要素(脆弱性)を有するもの)


〈引用文献〉
・「沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(ﾚｯﾄﾞﾃﾞｰﾀおきなわ)」(1996年 沖縄県環境保健部自然保護課)
・「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-ﾚｯﾄﾞﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸ-爬虫類・両生類」(2000年 環境庁)
・「日本の絶滅のおそれのある野生生物-ﾚｯﾄﾞﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸ-無脊椎動物編」(1991年 環境庁)
・「新石垣空港(宮良地区)環境影響予測評価委託業務報告書(概要版)」(1998年 沖縄県)
・「あまんﾐｶﾅﾄﾞｶﾘ生息実態調査報告(沖縄県天然記念物調査シリーズ第29集)」(1987 沖縄県教育委員会)
・「琉球列島の水生半翅目、Rostria」(林正美)
・「琉球列島の陸水生物」(西島他、2003年 東海大学出版会)
・「改訂版・日本のｹﾝｺﾞｳ」(森・北山、2002年 文一総合出版)
・「原色日本ﾄﾝﾎﾞ幼虫・成虫大図鑑」(杉村他、1999年 北海道大学図書刊行会)
・「原色日本甲虫図鑑Ⅱ」(上野他、1985年 保育社)
・「原色日本甲虫図鑑Ⅳ」(林他、1984年 保育社)
・「原色日本蝶類生態図鑑Ⅱ」(福田他、1981年 保育社)
・「増補改訂版原色日本陸産貝類図鑑」(東、1995年 保育社)
・「日本産アリ類画像データベースhttp://ant.edb.miyakyo-u.ac.jp/」(2003年 アリ類データベース作成グループ)
・「原色蝶類検索図鑑」(猪又、1990年 北隆館)
・「沖縄県洞窟実態調査報告Ⅲ(沖縄県天然記念物調査シリーズ第19集)」(1980年 沖縄県教育委員会)
・「沖縄クモ図鑑」(谷川、2003年 文業社)
・「琉球諸島におけるｸﾛｲﾜﾋﾀﾞﾘﾏｷﾏｲﾏｲの特異な分布について(沖縄生物学会誌第10巻第12号」(篠原、1973年 沖縄生物学会)